

## 学 界 消 息

## 1. 学界新役員きまる

5月21日気象研究所において開票の結果、日本気象学会の新役員はつぎのとおりきまった。

## 常任理事

高橋浩一郎(気研)、島山久尙(気研)、正野重方(東大)、有住直介(中央)、伊東暎自(気研)、根本順吉(中央)、神山恵三(気研)、和達清夫(中央)、岸保勘三郎(東大)、磯野謙治(東大)、渡辺和夫(中央)、肥沼寛一(中央)、淵秀隆(中央)。次点は、太田正次(中央)今井一郎(気研)、佐貫亦男(中央)

## 地方理事

北海道: 坂岸昇吉  
東 北: 山本義一  
関 東: 吉武素二、福井英一郎  
関 西: 大谷東平、滑川忠夫  
九 州: 倉石六郎

監事 桜庭信一、北川信一郎

## 2. 理事長に島山久尙氏、理事長代理に正野重方氏

理事による互選の結果、島山久尙氏が理事長を重任することにきまった。なお、理事長不在の場合の代理には正野重方氏があたることになった。

## 3. 新常任理事の仕事分担きまる。

6月5、13日の第1、2回常任理事会において、つぎのように事務分担がきまった。

庶務(発送、定款に関する仕事を含む)

淵 秀隆、根本順吉、渡辺和夫

記録作製	渡辺和夫
会計	高橋浩一郎
編集 気象集誌	正野重方
天気	有住直介
気象研究ノート	根本順吉
講演に関する仕事	神山恵三
学会連合に関する仕事	磯野謙治
75周年記念事業に関する仕事	伊東暎自、肥沼寛一
用語委員会に関する仕事	肥沼寛一
台風文献作製に関する仕事(主査は荒川秀俊)	有住直介
分科会に関する仕事	岸保勘三郎、神山恵三

## 4. 中共気象管制を解く

中華人民共和国は、6月1日から気象管制を解き、同国気象観測値の放送を国際型式にしたがって開始した。

6月6日同国気象局長、涂長望氏から中央気象台長和達清夫氏にあて、気象放送式、地号番号表、地上および上高層観測電報式等書類一式が送られてきた。

## 5. 原水爆関係の委員会解散

原水爆に関係ある委員会にはつぎの2つがあったが、いずれも、6月5日の常任理事会において解散することに決定した。

イ 「世界科学者連盟提案の、原子力の社会的意義に関する国際科学者会議に協力する準備委員会」(主査は正野重方理事)

昨年(1955)5月28日の理事会において出発したこの委員会は、問題の国際科学者会議の開催が未定であるため一応解散する。

ロ 水爆実験反対決議に対する資料を整える「原水爆調査委員会」(主査は伊東暎自理事)

本年(1956)1月6日の理事会で出発した同委員会は集誌(Ser. II. Vol 34, No. 2)および天気(Vol. 3, No. 4)に載せたような調査報告を作り、これを内外の関係機関に送り、その仕事を終ったものと認められ、解散することになった。

## 6. 会員移動

退会者 刈谷博(高知測候所)、武市亀治(高知測候所)

入会者 青柳二郎(気研)、内田亮(中央、海務課)

上代英一(気研)、黒沢真喜人(函館气象台)

高橋克己(気研)、津田直吉(気研)、常岡伸祐(気研)、仲本賢次(気研)、はせばてつや

(愛媛大学)、森下敏之(神戸气象台)、柳井

迪雄(東大)、山下憲一(通産省、工業技術員)

## 気象学会月例講演会お知らせ

①気象学史ならびに気象教育についてのシンポジウム開催について

昨年は気象学史についてだけのシンポジウムでしたが今年には気象教育のテーマをつけ加えたいと思います。趣旨は戦後地学の一部門として気象学がとり上げられ、小学校から高校まで色々の形で気象学がとり上げられていますが、それが同様な内容なもの少しづつ程度を高くしたくりかえしであり、実際の担当者はどうに教えてよいか迷っているのが現状ですので、この問題をまともに考えてみようということです。

期日 8月24日(金) 場所 中央気象台内研修所教室 講演申込は7月末日までに中央気象台内予報研究室奥田穰あて講演の要旨をそえて申出下さい。

② 気象学会9月例会

医学と気象に関するシンポジウム

一主として療養地気候について一

9月28日 13時 中央気象台第一会議室

申込み 気象研究所神山恵三宛